2010年6月発行　第32号

題字・イラスト：会員 加藤 比呂志

紺　碧

早稲田大学校友会　調布稲門会

調布稲門会　会報
2010.6　No. 32号
事務局　調布市若葉町 2-22-10
元木 勇 気付
Tel　03-3300-4554
Fax　03-3300-8728
編集責任者　香山 弘之

第29回　調布稲門会　総会

副会長　中野　慶子

調布稲門会 第29回総会は5月22日（土）調布市文化会館　たづくり　12階大会議室にて、会員・準会員73名、来賓17名、総勢90名という近年最多の出席者を迎え、盛大に開かれた。

来賓として、母校早稲田大学より地域担当副部長佐々木裕康　様、調布三田会、中央大学学員会調布支部、近隣7稲門会の役員の方々のご列席をいただいた。

開会に先立ち、この1年間に亡くなられた会員に黙祷をささげる。

開会に当たり元木　勇 会長が挨拶に立ち、この1年間に35人の新会員を迎え、会員数が210名になったことを報告、今後も会員増強に努めたいと抱負を語る。

総会議案は原案通り承認され、出席の新入会員 19名の自己紹介が行われた。平成卒の方も6人居られた。定年を迎えて入会された方、亡くなられたご主人に代わり準会員(会員の家族)として入会された方・・新しい同士の顔ぶれが加わる。

来賓の紹介の後、代表の方からご挨拶を頂く。

早稲田大学の佐々木裕康 様は、大学の近況を語り、校友会が今年創立125周年の歴史を刻み、第2世紀に歩みだすと、挨拶された。

調布三田会の柴田精一会長は、調布三田会は「調布稲門会に4年おくれで創立され、ライバル早稲田あっての三田会という思いで会を発展させてきた」と語られた。

講演に移り天台宗深大寺第八十八世張堂完俊住職に「新深大寺物語」のテーマで、お寺を中心とした「深大寺そばをつくる会」など、町づくり活動のお話をいただいた。

懇親会では、東京三多摩支部支部長・東村山稲門会会長　小亀輝雄　様のご挨拶、中央大学学員会調布支部　幹事長佐々木国夫様に乾杯のご発声をいただいた。

アトラクションは、今年 10 番目の同好会となった「フラダンス同好会」のフラダンスのお披露目により、懇親の場が明るく楽しく盛り上がる。

引き続き同好会の紹介が行われ、囲碁将棋、カラオケ、硬式テニス、ゴルフ、太極拳、社交ダンス、

麻雀、ワンゲル、食歩会、フラダンスの活動が紹介された。

校歌斉唱をして、閉会後、新入会員と会長および同好会幹事の顔合わせを行い、同好会への入会を勧める。尚、総会出席者の高齢化に鑑み、懇親会の席に適宜、分かれて懇談できるようにテーブル、椅子を配した。食事をしながら寛ぎの場が広がり、出席者から好評をいただいた。

第２９回総会　講演概要

講演者　天台宗深大寺　第八十八世　張堂完俊 住職

新深大寺物語

一寸した小話を紹介したい。昔からお月様とお日様はとても仲がよかったらしい。あるとき二人で旅に出た。ばったりと雷様と出会った。三人意気投合し宿に泊まった。いろいろ話をしているうちに、あっと言う間に夜が更け、次の朝、雷様が目を覚ましたら、お日様とお月様は、もう旅に出発したと宿の主人が言う。雷様は“さすがに月日の発つ（経つ）のは早いものだのう”“雷様は如何されますか”” と主人が聞く。“私はまだ時間があるから、ゆっくりしている。私の得意は夕立（夕発ち）だ”“それまでは如何なさいますか”“私は部屋でゴロゴロしている”

一週間ほど前、電通大の新入生に話しをする機会があり、電通大なら雷の話もよかろうと、此の小話をしたら、今時の若者にも結構受けた。

私が深大寺に来たのは昭和42年、東京オリンピックでマラソンを走った円谷選手は、私の高校の先輩で、そのことが深い想い出に残っている。深大寺に来て、私の田舎、福島より田舎だと思った。今テレビで放映しているゲゲゲの女房　あの場面も古いが、あんな感じだったかなと思う。あの頃、昭和30年代、一番いい時代だった。物がない、電化製品もない。やがて洗濯機、冷蔵庫、テレビが出始め、喜ばれるようになった。電話は玄関の下駄箱の上に置かれていた。あれは周りの人に使っていいよということで、知らず知らずに、繋がりのあった時代だったと思う。今は個々に携帯電話が広がり、点々ばらばらの時代になった気がする。

深大寺の境内に素晴らしい句碑がある。中村草田男「万緑の中や吾子の歯生え初むる」　小学校の俳句指導の場でよく紹介される句で、季語は初夏、非常に生命観のある、全てがみなぎる力強さを感じる句である。もう一つ有名な句がある。「降る雪や明治は遠くなりにけり」　昭和に入り戦後に詠まれた。今、草田男が存命なら明治を昭和に変え、別の句が詠まれたであろう。平成生まれの世代が増え、時代は変ってくる。

寺は古めかしく時代遅れのように思われているが、然し多くの情報が入り、世の中の動きが分かる。深大寺で直そうと思っていることがある。今の人は座れなくなった。正座が出来なくなった。特に女性は正座がいやだ。そのために寺が敬遠されるので、寺の本堂は椅子に変ってきている。休憩する座敷もテーブルに変えていく。

世の中の変化が見られる。かっては○○家といった言葉を大切にした。一人っ子の家族が増え、日本、中国、韓国・・老人が増え、家族の絆が抜けてくる。子供の虐待問題も多くなったが、昔は兄弟も多く、子供同士うまく育ってきた。

江戸時代、寺請け制度があり、戸籍係りのような役場の仕事をしていた。旅に出る住民の身元証明をしていた。寺も時代により変り、これから先、どうなるか危機感もある。田舎の方では人がいなくなり、後継者もなく寺がなくなり、名前だけ残る。かと言って宗教心が無くなった訳ではない。

お経には天性のものがあり、塔婆も印刷される時代になってきた。最近、深大寺では折角縁あってきた若い者にそば打ちを勧めている。近い将来、そばのイベントをやりたいと思っている。江戸にはそば打ちの職人が沢山いる、やり方によって東京だからできる事がある。25年ぐらい前、深大寺でそばを作っている農家があった。そばは毎年採って蒔かないとだめになる。毎年種として採らないと芽が出ない。寺の山門には蕎麦屋が多い、そばは五穀ではない。そばの実は人の命を繋ぐ純朴な食べ物である。そばの実を指先でつぶし、その粉を水に溶く、これをみずがきと言う。そば粉は寒の時に挽くと保存できる。蕎麦掻きは美味しい。これは究極のインスタントである。蕎麦掻きは沸騰している熱湯でないとうまく行かない。ポットの湯では美味さが出ない。

小林一茶の句「信濃路はそばの白さにぞっとする」

そばは少しつなぎが入ると喉ごしがいい。昔、深大寺辺りでは小麦粉など上等なものは使えず、トチの実をつなぎに入れた。トチは灰汁抜きが面倒である。トチは自然に生え、育っている。トチについて昔からこんな言葉がある「トチを切るバカ植えるバカ」　トチを切るのはばか者だ。何かの時に食べられる。縄文時代の遺跡からトチの実が発掘されている。われわれの先祖もそういったものを食べ、命を繋いできた。植えても成長には相当な年月がかかる。トチをつなぎにすると、そばはうまく打てないようだ。こんな川柳がある「深大寺とちめんぼうで馳走する」（とちめんぼう：大慌てで）

NHKのTV効果か深大寺の観光客が増えている。去年11月に元三大師のご開帳を行った。偶々深大寺のお釈迦様が見つかって、丁度100年目であった。明治42年に深大寺を訪れた柴田常恵という人が見つけた。白鳳時代につくられた仏像だった。大正2年に旧国宝という指定を受ける。仏像は立派な厨子に入っている。此の厨子は寺に関係のない寺山善四郎という方が奉納した。江戸一の料亭、八百善の八代目で、八百善では江戸の水が悪いので武蔵野の深大寺近くまで水を汲みに来ていた。江戸にこんな古い仏像があることを知り、店の客にも呼びかけ厨子を造ろうということになった。厨子は国から正倉院御物の複製を認められた吉田包春が手がけた。深大寺の水が縁結びになっている。

京王線沿線に高尾、高幡不動、深大寺の有名な寺があるので、此の三者で何かイベントをやろうと声を掛けている。深大寺には武蔵野の自然、神代植物公園と憩いの場所がある。お寺を核にして何かをやりたいと思っている。調布イコール深大寺、深大寺イコール調布といった思いで、NHKの朝ドラで調布の地名も全国区に足掛かりが出てきたので旗振りをしたい。これをご縁に、宜しくお願いします。　　（テープ記録　山崎）

調布稲門会 会員増強運動に当たって

副会長　椎原　大典
（会員増強担当）

去る5月22日（土）　たづくり会館12階大ホールで開催された、第29回調布稲門会定例総会で、19名の新入会員の諸氏がステージに上がり、全員拍手の中で皆に紹介され、写真に納まる一幕があった。

母校早稲田大学の卒業生は、調布市人口約22万人の内、2200余名在住していると思われるが、うち当稲門会会員は180名程度で、総会や同好会活動などに参加している顔ぶれは大体いつも決まっているのが

実情で、会員増強のニーズは毎度の事ながら認識しつつも、なかなか横に輪が広がっていないのが現であった。昨年11月8日、八王子市の京王プラザホテルで東京三多摩地区の会長、副会長、役員が二百数十名集り、白井総長を来賓に迎え総会が開催された。総長の一時間余の挨拶、講演の中で、記憶に残ったことが二つある。一つは早稲田大学が創立125周年を無事に終わらせ、今後、世界に羽ばたくグローバルな大学を目指し躍進していかねばならない。その為にも校友会活動を更に広げ、卒業生諸氏の協力支援をお願いしたい。

他の一つは、総長自身、若かりし頃、国立市や町田市に十数年居住したこともあって、多摩地区に非常に愛着を感じている。その当時の多摩地区は日本経済全体が右肩上がりの高度成長の時期と重なり、多摩ニュータウンという代名詞で呼ばれていた時代であった。ところが最近の多摩は、高齢化社会の到来もあって、子供たちは夫々独立、巣立ち、ニュータウンと云うよりオールドタウンになりつつあるのではないかと、心配、危惧されているようであった。

一方、調布稲門会も昨年5月元木 勇 新会長が就任、会員増強への理解と強い熱意で、改めて新チームをつくり、増強運動をスタートさせることとした。打合せを重ね、母校校友会より名簿を取り寄せ、それをベースに本年2月3日、入会案内の第一回目のダイレクトメールを470余名に発送した。続いて一ヵ月後に、ご返信のない校友にご案内の確認も含め、再度ハガキを送付し入会を勧めた。

その結果、既報の通り準会員を含めて36名の新しい会員が加入していただき、当局としても大変喜んでいるところです。

これもひとえに関係各位の多大なるご支援ご協力によるものと感謝し、担当者としても今後、尚一層、会員増強に努めていく所存ですので、宜しくお願い申し上げます。

2009／6～2010／6　入会の新しい会員（敬称略）

Wendy Hu　クラーセン ハンスユルゲン　石井 宏和　伊藤 悦子　大嶋 憲三　大槻 誠孝　岡田 文男　尾崎 義雄　唐川 トシ子　菊池 吉晏　木對 紀夫　草野 哲理　小暮 惠也　後藤 敏彦　近藤 清華　三枝 宏次　笹野 澄　佐久間 由紀　佐藤 彰　佐藤 慎太郎　佐藤 久美子　白石 勝　杉原 素明　高木 泰彦　高原 浩　高原 千寿子　常見 宏一　西川 正夫　丹羽 進　中村 誠　中村 理佐子　原 亮　福井 浅子　堀内 正之　古屋 紀人　松野 宏　目黒 勝　山本 公子　山本 建治　渡部 清孝（計40名）

自己紹介

クラーセン　ハンスユルゲン（平10　法）

私の名前は、クラーセン ハンスユルゲンです。1965年3月31日にドイツで生まれました。生まれたところは、ドイツ、ベルギー、そしてオランダという三国の国境が接する、ドイツの最西端に位置している都市、アーヘンです。工科大学で知られている町で、保養地としても有名です。人口は現在住んでいる調

布市とほぼ同じです。20歳までずっと、アーヘンの長閑な郊外で育っていました。高校を卒業した後、アーヘン工科大学の経済・経営学部に入学しましたが、3年生になったころ、未知の世界に強い関心を持ち始め、海外留学しようと決心しました。まずスコットランドのエジンバラ大学に1年間留学、その後、一ツ橋大学の商学部にも1年の予定で国費留学しました。当時の日本は高度な経済成長を成し遂げた結果、世界中に注目を浴びていました。その日本経済について勉強し、日本的な経営方式の専門知識を身につけようと思い、平成元年2月に来日しました。

来日したときある程度日本語の基礎知識がありましたが、勉強と共に日本語の上達も大きな課題でしたので、予定の1年は短すぎて、結局延長が2回許可され、ほぼ2年半一ツ橋大学に通っていました。その間、日本に留まる希望が強くなり、ドイツの大学からの編入を申請したが、制度の違いが理由で認められませんでした。結局、ドイツの大学をそのまま中退し、日本で仕事を始めました。勉強と両立するため、当時トヨタ自動車を始めとして優れた日本企業の経営方式を世界中の組織に教える日本のコンサルティング企業の専門通訳を務めました。

その仕事を3年ほど続け、様々な場面で欧米と日本の法律の共通点と相違点に接した挙句、再度大学に入り、法律を勉強することにました。平成6年に早稲田大学と立命館大学の法学部入学試験を受け、両方合格しましたが、早大を選びました。当時29歳でしたので、年齢的にも聊か目立つ学生でしたが、先生方にも同級生にもすぐに受け入れて頂いたので、早大への入学は正しい選択だったと今でも思っています。学費を自分で負担していたので、仕事を続けながらの通学に先生方がいろいろと配慮して下さったこともあって、平成10年に無事に卒業することができました。

しかし法律より、やはり企業の経営への関心が相変わらず高く、早大卒業後に日本的経営方式の知識を国外に伝達し、その理解を高めようと、独立した経営コンサルタントとしての仕事を始めました。その後法人化も行い、この仕事は現在に至っていますが、昨年から環境技術とナノ製品の貿易にも進出し、ドイツでも法人を設立しました。

現在、妻と9歳の息子と3人で、調布市深大寺に住んでいます。これから宜しくお願い申し上げます。

紺碧の広場　会員エッセイ

ペナレスからアグラへ

石沢　文夫（昭30年　法）

6月の半ば、降り立ったベナレス空港は、モンスーン前ながら、予想に反して、４５度を上下する気温であった。幸いにも湿度が低いため熱風の中でも汗が流れることはなく、如何にか凌げる。

丁度、月曜の夕刻には、ガンジス川の沐浴が行われると聞き、三輪の自転車タクシーに乗って川に向った。板張りに近い座席は、ドシン、ドシンと上下左右に揺れる。振り落とされないように、必死でこらえる。しかし、車上からは沿道の町々の人々の活き活きとした姿が目の前に展開し、埃っぽい中にナマの生活の匂いを感じることが出来た。

片側２車線ほどの簡易舗装の道路には、歩行者、

自転車、自転車タクシー，三輪タクシー，大小のバイク、大小の自動車、それぞれが一瞬の間隙を縫って道幅を食み出しながら流れる。走る凶器を事もなげに操り、目的地を目指す。これは神業である。その同じ道路には、牛が放たれており、その糞も其処此処に散見される。不思議にも悪臭が気にならない。この喧騒と混沌の中で、事故もなく過ぎてゆく時間が信じ難い。

乾期のガンジスの川岸は階段状に開け，万を数えようとする人々が、思い思いに陣取り、高僧に祈りを依頼し、松明を燈して敬虔な祈りを捧げる。川岸には水を掬って体を清め、或いは川に身を沈めて祈りを捧げる。川面には観光客であろうか川船から岸辺の光景に見入っている。この祈りは、日没から夜半まで続く。

ベナレスは祈りの聖地である。ガンジスの流れは，沐浴の水を湛え、死者の遺灰を地に届ける聖なる川であった。

さて、翌日は列車でアグラに向った。ベナレスの駅まで、混雑を見込んで早めにホテルを発ったが、予想に反して順調に到着した。ところが当の列車はダイヤより１時間以上も遅れてベナレスを出発した。

車窓からの眺めは、点在するマンゴウの木と乾いた耕地が果てしなく続く。ガンジスに沿って平原を西に進んでゆく旅は、単調で地域差を感じない。

長い列車の中ほどに一両だけの２等車が連結されており、エアコンが付いている。この車両は、あの懐かしい二階の寝台車になっており、横になることも出来る。８時間ほど掛かる旅には有難い。ただ、一寸戸惑ったのは、かなりの高低差のある二階への上り下りの手立てがない。一度降りたらもうトライしたくない。それにトイレだ、垂れ流しだから、地面が見える。吸い込まれそうだ。

そこそこのスピードで滑り出した列車だったが、アグラにはまだかなりの地点から、ストップすることが多くなり、いつ着くとも知れない不安がよぎる。太陽は次第に西に傾き、やがて地平線に沈んだ。終日列車に揺られるこんな旅は、もう我が国では味わえない。

ムガール帝国の都だったこの町は、何を措いてもタージマハールであろう。ヤムナー川に近く広大な敷地に建つ、左右対称の建造物は、前面に池を配し壮大な宮殿に見える。その実は、皇帝の妃の墓なのだそうだ。アーグラー城からは、その全容が見渡せた。

この旅で垣間見えたインドは、大きな不調和であった。町を疾駆する自動車の多くは日本製である。大人気なのだそうだ。舗装の不十分な道路には好適なのかも知れない。しかし一方では、インドはＩＴの大国である。

11億の人々の際限もない活力は、遠からずしてインドを世界の大国に押し上げてゆくことであろう。

バッハ音楽祭レポート

香山　弘之（昭35年　政経）

ベルリンから特急で１時間10分、旧東ドイツのライプツイヒに着きます。1989年東ドイツの民主化を求める運動が、ここニコライ教会に集まった人々のデモから始まり、東西ドイツの統一へと展開しました。

1409年に３番目に古い大学が創立され、ゲーテ・ニーチェ・森鴎外が学んだ場所でも有ります。人口５１万人余、リングと呼ばれる大通りに囲まれた中に街の中心部が有り歩いて見物できます。ゲバントハウス交響楽団の本拠地でもあります。

バッハは人生後半の 27 年間をこの街最大のトーマス教会と市の音楽監督として、日曜・祭日毎に演奏される礼拝音楽の作曲・指揮・オルガン演奏・合唱団の教育を行い、1750年に65歳で亡くなりました。そしてお墓もトーマス教会の祭壇の前にあり多くの人が訪れ、献花が絶えません。

音楽祭はこの街で毎年６月に 10 日間開催されます。世界中から多くの人が訪れ、日本からも様々なツアーを含めて延500人の参加者が見込まれているとのこと。今年のテーマハ「バッハ・シューマン・そしてブラームス」、この街で生まれたメンデルスゾ

ーンが1829年に「マタイ受難曲」を100年ぶりに演奏し、バッハの音楽を復活させたのは有名な話ですが、今年生誕200年を迎えるシューマン・ブラームスもバッハの作品を愛し、二人が中心になってそれまでばらばらになっていた作品を「旧バッハ全集」として編集しました。さらに演奏会でも積極的にバッハの作品を取り上げ、バッハファンを広げてきました。そこで今回の音楽祭では、この二人の作品も随所で取り上げられました。

今年は85回目の音楽祭で6月11日～20日までの開催で113の催し物がさまざまな会場で行われました。連日朝は9時30分、夜は10時30分から開演のものまであり、終演は夜半を過ぎます。10時ごろまで明るいので遅いのは平気なようです。

今回は10日間の期間の内最初の3日間を聴きました。

11日はカトリック教会でアンドレアス・シフのピアノ独奏でバッハのフランス組曲全6曲、この曲のCDは持っていますが実演で聞いてみるとけれんみのない素晴らしい演奏でした。会場は約300名を収容する小さい会場で自由席、早めに出掛けて身近に鑑賞できました。

12日は街の中心のニコライ教会で古楽の巨匠ヘルベッヘの指揮でバッハがライプチィヒで作曲したカンタータ4曲を聴きました。日本でもよく歌っているピーター・コーイがバスを歌っていました。ここは1,000人以上入る教会で天井も高く音響も素晴らしく、演奏も古楽器を使い独特の音色を出していました。

13日はトーマス教会の日曜礼拝に参加、ここも1,000名以上入る会場だが満員の盛況。牧師のお説教の後にバッハのカンタータ75番。教会の合唱団とゲバントハウス管弦楽団の演奏、この曲は1723年5月30日に当所で初演されました。

そして最終日の20日にトーマス教会で最後の大作「ロ短調ミサ曲」をガーディナーの指揮で演奏して幕を閉じます。2011年は6月10日～19日に開催され、演奏曲目も発表されています。この音楽祭を運営しているのは新バッハ教会、ここの広報を担当しているのは日本人で色々と便宜を図ってもらえます。

演奏会の後は家内と二人でミュンヘンに向った、世界遺産に登録され、ヨーロッパで最も美しいロココ様式のヴィーズ教会の見学のためだ。１７３８年

近郷のシュタインガーデンの修道院に放置されていた「鞭打たれる姿のキリスト像」が涙を流したという奇跡が起こり、その像を祀るため1746年に建てられた教会だ。設計者はロココ芸術の頂点を極めたツィンマーマンの生涯最高の傑作で、完成後は死ぬまでの10年間をずっとこの村で過ごしたという。

ミュンヘンで美味しい生ビールで乾杯した翌朝8：55発の列車でフュッセンまで約2時間、駅前に止まっていたバスの運転手に行き先を確認して乗車した。発車してすぐに山の中腹にノイシュバンシュタイン城（白鳥城）・ホーエンシュバンガウ城を見ながら草原を進むバスの旅を楽しみ、途中で乗換えて緑の草原の中にある教会に到着。外観は何の変哲もない白い建物、近所に土産物屋・食堂など数軒、広場には団体客を乗せたバスが数台、結構な観光客の数だ。内部に入ると華麗な装飾と鮮やかな色彩に圧倒される、キリスト像を正面に天上を象徴する天井フレスコ画は夢の世界だ。場内の椅子に腰掛けしばらく感激の余韻に浸る。あっという間に時間は過ぎ帰りの時間が来た。

帰りはまたバス、来るとき途中から一緒になった大阪の女性と我々3名だけがお客、見学者はツアー客・自家用車の人がほとんどでバスは1日に5本とか、早く出掛けて帰りのバスの時間を確認しておか

なければいけない。ホテルもタクシーもない。バスの出ている所まで５ｋｍも歩くことになるとのこと。

列車でミュンヘンに戻り向ったのはフランチェスカナーというビアホール、地下鉄で２駅目のマリエン広場から歩いて数分、ここの無濾過の生ビールの黒は最高、つまみは自家製のレバーケーゼ、あまりの美味さに翌日も通う始末でした。

そして最後の夜はフランクフルト、ここの名物はリンゴ酒（シードル）というお酒、てくてく歩いてこの街の下町の居酒屋に到着、中に入ると甘酸っぱいりんごの香り。日本語のメニューがあり、300 cc のリンゴ酒は１杯 1.6 ユーロの安さだ。アルコール度は 5.5%、ほぼビールと同じだ。店内は地元のおばさんだろうか、豪快に杯を重ねて大声で談笑、にぎやかな店であった。おつまみは骨付き塩漬け豚肉・キャベツの酢漬け・パンがつく、３杯ずつリンゴ酒を嗜み今回の旅を締めくくった。

我らの同好会活動

「白い灯台と岬めぐりコースの散策」～観音崎～

天野　凡子（昭56.　文）

今回のワンゲル同好会は、当初予定の５月３０日が天候不良のため中止となり、翌週６月６日（日）に開催しました。一週間待った甲斐あって当日は絶好の行楽日和。総勢１３名で品川駅を９時半過ぎに元気に出発し１時間弱で馬堀海岸駅に到着。いよいよウォーキングスタートです。きれいなお花がいっぱいのすてきな住宅街を抜けるとそこはもう海！目の前に広々とした視界が開けて爽やかな風に微かに海の香りがして、自然にみんなの歓声が上がりました。のんびり釣りを楽しむ人の釣果をのぞき込んだりしながらしばらく海沿いの遊歩道を歩き、最初のポイント走水水源地に到着。カルシウムを大量に含むヴェルニーの水で喉を潤し、少し休憩をとってから御所ケ崎を通って日本武尊命（やまとたけるのみこと）と妻の弟橘媛命（おとたちばなひめのみこと）の伝説で名高い走水神社へ。がんばって階段を上ると更に遠くまで海が見渡せて絶景でした。再び海岸沿いに戻ると観音崎京急ホテルの海岸周りはボードウォークという木製の遊歩道になっています。アスファルトとは違う快適な歩き心地を楽しみ、走水海岸の波際におり、突き出た岩礁に腰を下ろし記念撮影。そろそろおなかがすいてきたのを観音崎公園までもうひとがんばりしてここで昼食。家族連れでバーベキューをしたり犬を散歩させたりのどかな風景で、いろいろ問題はあるけれど平和な日本はありがたいなぁと思ったりしました。お弁当でエネルギーを補給した後はしっかりウォーキングして砲台跡を通って最初の洋式灯台・観音崎灯台へ。岬の突端に立つ真っ白な灯台が青い海に映えてとてもきれいで

した。その後大砲（28インチ榴弾砲）の模型のある展望園地で最後の休憩をとって東京湾や房総半島を展望した後、ビジターセンターに隣接の素敵なレストランで打ち上げ。乾いた喉を癒しました。ケーキセットでニコニコの女性陣も♪

よく歩き、目には青葉と紺碧の海、そして仲間との楽しいおしゃべり、身も心も洗われる爽快な一日でした。今回はワンゲル常連のメンバーに加えて新入会員の大槻さんにご参加いただけたことも大変嬉しかったです。次回の秋のワンゲルには更に多くの新

会員の方々のご参加をお待ちしております。

フラダンス同好会発足

準会員　大谷裕子

今年の新年会で、皆様の暖かいご支援により１０番目の同好会として「フラダンス」を発足させて頂きました。どうぞ宜しくお願いします。

「フラダンス」と調布稲門会とのご縁の始まりは４年前でした。ワンゲル同好会の行事に参加いたしました折、「フラダンスを一緒に始めませんか？」と声を掛けました所、竹下さん・塚田さん・村上さんのお三方に賛同頂いたのが始まりでした。そして現在は佐藤さんも参加されております。

又、調布市とのつながりも出来ました。調布市では「調布市民の方々が、これからの永い人生の生き甲斐として、生涯学習の楽しさを体験してもらおう」と「生涯学習体験教室」を実施しています。:これは「体験者受け入れの協力を申し出たサークル」に体験的に参加することにより、生涯学習のきっかけづくりを進める事業です。私共のフラダンスも参画し地域社会に貢献しています。

そして毎年２月頃「生涯学習体験発表コンサート」に参加しています

３年前の体験者の中に、若い女性と・大学４年生の背の高い男性が入って来ました。彼は直ぐクラスのアイドルとなり、明るい雰囲気でクラスを引っ張っていってくれました。ある日「僕がフラダンスを踊っている姿を祖母に見せたいので、テープを貰えませんか？」と言われた時は、とても嬉しかったのを今でもはっきり覚えています。でも、「４月から就職ですので参加出来なくなりました。とても楽しかったです。有難うございました」とお礼を言われ感動いたしました。

現在は小学生から８４歳まで、みな明るく楽しんでくれています。８４歳の方の覚えようという態度には、私の方が参考にさせて貰っているくらいです。この方は今も週４回のテニスも楽しまれておられます。

そして皆さんが、みるみる綺麗になって行くのを見ると、フラダンスには不思議な力があるのだな～と、つくづく思います。

皆様のお知り合いの方で、フラダンスに興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら是非ご紹介下さい。そして今後とも、ご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(同好会・代表者)

囲碁・将棋：	塩沢　誠	042-484-1505	社交ダンス：	島野　一彦	042-484-7866
	早川　政夫	042-487-9610	太極拳：	中野　完二	042-485-0523
	大谷　暢廣	042-481-0202	麻雀：	濁川　寿次	042-483-6966
カラオケ：	小笠原　忠八郎	042-481-6867	硬式テニス：	村上　勉	042-441-5151
ゴルフ：	香山　弘之	042-482-6994	食・歩会：	山田　和子	042-488-0741
ワンゲル：	舞木　孝治	042-486-0665　天野　凡子　042-480-2503			

英会話同好会会員募集

有志の間で英会話同好会の設立が計画されています。

月２回（第一、第三土曜日午後）に「たづくり」の一室で外人講師を招き、初級レベルから英会話を勉強しようういう試みです。会費は￥２，０００/月の予定です。希望者はご連絡下さい。

世話人　杉原 素明　　若葉町１－２１－１９　（℡０３－３３０９－５９４４）

2010.10.17（日）　稲門祭
ホームカミングデー
校友会設立125周年記念式典

2011.5.28(土)
第30回　定例総会
調布市文化会館　「たづくり」

2010.2.20　京王線地下工事現場の見学会に参加する。板敷きの線路下で、地下軌道工事が着実に進んでいる。右上は国領辺りから布田方面を見る、丸くくり抜かれた軌道、下は工事が進む布田駅。2012年 調布駅～国領駅周辺は踏み切りのない町に生まれ変わる。

不動産賃貸
中村不動産管理株式会社
代表取締役　中村　俊一
住所　〒182・0035
東京都調布市上石原一・一〇・一
電話　〇四二・四八二・二〇三三

旭化成建材㈱指定工事店
外壁塗装・屋根塗装
株式会社住まいるスズキ
代表取締役　鈴木　光孝
〒182・0023
東京都調布市染地三・五・六五
電話　〇一二〇・〇八〇・二四二

深大寺そば　創業文久年間
ご宴会・俳句会・御法事
元祖　嶋田家
住所　〒182・0017
東京都調布市深大寺元町五・十二・十
電話　〇四二・四八二・三五七八
FAX　〇四二・四九九・六六五五

桜田倶楽部
東京テニスカレッジ
会長　秋山　一
昭和22政経卒
住所　〒182・0017
東京都調布市深大寺元町二・三二・一
電話　〇四二・四八二・二二〇九

ギフト
京王百貨店調布外商営業所
住所　〒182・0024
東京都調布市布田一・四五・一
シエロビル四階
電話　〇四二・四八一・五七六一
FAX　〇四二・四八七・九〇一一

思いをカタチにするそれを支える
プロの技がここにあります
冠婚葬祭・出張料理・パ・ティ料理・会席料理
アジサイワールド㈱
電話　〇一二〇・五五五・五八五
FAX　〇四二・四九九・七八八一
http://www.ajisai.co.jp

身体障害者の社会参加と活動の場
印刷工房めじろ作業所
〒一八二・〇〇二四
東京都調布市布田二・四七・二
カームネス中村一階
電話　〇四二・四四三・一六三三
この会報は印刷工房めじろ作業所で印刷しました。

早稲田大学商議員
早稲田大学調布稲門会
会長　元木　勇
自宅　〒182・0003
調布市若葉町二・二二・一〇
電話　〇三・三三〇〇・四五五四（代）
FAX　〇三・三三〇〇・八七二八

新しい食文化を創る
株式会社山田屋本店
代表取締役社長　秋沢　淳雄
住所　〒182・0024
東京都調布市布田三・一・一
電話　〇四二・四八二・四五八五
FAX　〇四二・四八二・四五七二

堀紙管株式会社
住所　〒182・0034
東京都調布市下石原三・六二・一
電話　〇四二・四八七・一一五一（代）
FAX　〇四二・四八七・一一五四

林建設株式会社
取締役社長　林　清一
住所　〒182・8512
東京都調布市小島町二・五六・三
電話　〇四二・四八六・一一一一
FAX　〇四二・四八六・一一二〇